

科目名	航空概論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	井口 健太		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大分空港にて、空港地上支援業務に従事		
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	航空(空港)基礎知識及び航空機の到着から出発までの各業務、注意事項を理解する。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					基本的な業務理解及び知識を習得する	
					○	航空輸送サービス従事者として、社会のインフラの重要性を認識させる	
テキスト・教材 参考図書	プリント教材						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	空港内及び航空関連業務			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	2	航空機機種、機種特性			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	3	空港地上支援器材(特殊車両)、航空(空港)用語			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	4	空港3レター／航空2レター、航空(空港)用語			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	5	グランドハンドリングサービスの作業工程管理			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	6	航空貨物輸送の基礎			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	7	ウェイト&バランス(重量管理)			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	8	関連法規			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題・発表 以上を、以下の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	宿題・発表				○		30%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、受験資格を与えない。						

科目名	エアクラフト						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	井口 健太		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大分空港にて、空港地上支援業務に従事		
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	日本の各空港で運航されている航空機の代表的な機種の種類、機体構造/エンジン/燃料/ランディングギア/油圧/圧縮空気/ドアなど各システムやATA No.についてグランドハンドリング業務に従事する上で必須の事項について基礎知識を理解する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					グランドハンドリング業務に従事する上で、基本的な航空機の構造を説明することができる	
					○	交通インフラサービスに携わる以上、安全性並びに社会的側面を認識することができる	
テキスト・教材 参考図書	プリント教材及び、「飛行機のグランドハンドリング」日本航空技術教会出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	B744各部の名称と仕組み ATA No. 航空機が飛ぶために必要な物(条件)			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	2	模型を使用した機体構造全般 航空機整備とは 航空機クリーニング			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	3	航空機に使用される液体/気体/材料/新素材			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	4	各部の構造説明 構造による種類 胴体 翼 水平尾翼 窓			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	5	推進装置 エンジンの分類 オイルの目的とシステム			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	6	燃料装置 燃料の種類 同電位と水汚染 油圧装置/長所・短所			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	7	電気装置 直流/交流 三相交流 圧縮空気装置 客室与圧 エアコン			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	8	給排水装置 トイレ構造 給水構造 各部ドア構造/CABIN・CARGO			プリント教材を事前に読んでおくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題・発表 以上を、以下の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	宿題・発表				○		30%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、受験資格を与えない。						

科目名	空港実務 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野 浩一		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	エアラインのグループ企業にてグランドハンドリング業務に従事		
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	グランドハンドリング業務を理解し、空港地上支援業務従事者としての基礎知識を学び、理解を深める。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					航空用語を理解し、それを使い会話ができる	
	○					航空機地上支援機材を理解し、各作業での役割を説明することができる	
	○					航空機及び空港内の設備を理解し、資料を基に説明することができる	
	○	○				グランドハンドリング業務を理解し、作業の工程を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版 パワーポイントなど各プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グランドハンドリングの概要					
	2	グランドハンドリングの概要(業務)					
	3	グランドハンドリングの概要(機種概要)①					
	4	グランドハンドリングの概要(機種概要)②					
	5	グランドハンドリングの概要(航空用語 空港/エアライン)				エアライン・空港コードを覚える(0.5時間)	
	6	グランドハンドリングの概要(航空用語 空港/エアライン)					
	7	搭載・取り卸し作業・振り返り・理解度テスト					
	8	グランドハンドリングの概要(航空用語 ULD)				ULDタイプを覚える(0.5時間)	
	9	グランドハンドリングの概要(航空用語 ULD)					
	10	空港機側・空港内ランプ・誘導路などの表示や標識					
	11	航空機地上支援機材					
	12	航空機地上支援機材					
	13	航空機地上支援機材					
	14	CARGO COMPARTMENT(貨物室)					
15	搭載・取り卸し作業・振り返り・理解度テスト						
評価方法	(1)授業中での口頭質問 (2)授業の中で理解度テストを実施 (3)定期試験の実施 以上を、以下の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎					70%
	理解度テスト(筆記/2回)	◎					20%
	授業中の質問	◎	○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	TOEIC対策 I A					
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I A					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	和田 菜穂	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年					
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞り場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	レベル分けテスト				
	2	TOEIC学習目標と出題形式、解法のテクニック、Part5対策、ボキャブラリー、WORD FORM(品詞、派生語)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	3	Part5対策、ボキャブラリー、前置詞、リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	4	Part5対策 ボキャブラリー 接続詞 前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	5	Part5対策 ボキャブラリー 動詞、助動詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	6	Part5対策 ボキャブラリー 代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	7	Part5対策ボキャブラリー形容詞、副詞リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	8	Part5対策 ボキャブラリー 冠詞、序数			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	9	Part5対策 ボキャブラリー 比較級 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	10	Part5対策 ボキャブラリー 最上級			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	11	Part5対策 ボキャブラリー 形容詞、副詞、比較級、最上級 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	12	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	13	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	14	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞、分詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	15	Part5対策 ボキャブラリー 関係代名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	16	Part5対策 ボキャブラリー 関係副詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	17	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	18	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	19	Part7対策 ボキャブラリー 文法(話法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	20	Reading part5対策 ボキャブラリー			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	21	Reading Part5対策 ボキャブラリー リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	22	Reading対策 ボキャブラリー Skimming Scanning			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	23	定期試験				

評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC(IP)	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○		○		10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定2級対策 I A					
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I A					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	岡本 彩	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	レベルチェックテスト				
	2	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	英検模擬試験 問題1 筆記			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	英検模擬試験 問題1 リスニング 解答&解説大問1			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問1、2			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	英検模擬試験 問題1 モデルライティング練習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	英検本試験解説①				
	21	英検本試験解説②				
	22	試験対策				
	23	試験				

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定準2級対策 I A					
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I A					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	中山 久豪	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	塾講師、英語講師	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格を目指す。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	プレイスメントテスト				
	2	オリエンテーション			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	4	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	5	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	6	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	7	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	8	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	9	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	10	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	11	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	14	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	15	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	16	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	17	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	18	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	19	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	20	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	21	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	22	後期まとめ			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
23	授業内正試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。		

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	TOEIC対策 I B					
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I B					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	和田 菜穂	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞在場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	Reading Part5対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	2	Reading Part5対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	3	Reading Part5対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	4	Reading Part5対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	5	Reading Part6対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	6	Reading Part6対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	7	Reading Part6対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	8	Reading Part6対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	9	Reading Part6対策	リスニングPart1.2対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	10	Reading Part7対策	リスニングPart3対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	11	Reading Part7対策	リスニングPart3対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	12	Reading Part7対策	リスニングPart3対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	13	Reading Part7対策	リスニングPart3対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	14	Reading Part7対策	リスニングPart3対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	15	Reading Part7対策	リスニングPart3対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	16	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	17	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	18	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	19	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	20	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	21	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	22	Reading Part7対策	リスニングPart4対策		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	23	定期試験対策	学期総括		前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	

評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC(IP)	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○		○		10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定2級対策 I B					
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I B					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	岡本 彩	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集、TOEIC L&Rテスト公式問題集					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5				
	2	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策(過去問題)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策(過去問題)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング				
23	前期のまとめ					

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定準2級対策 I B					
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I B					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	中山 久豪	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	塾講師、英語講師	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	4	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	5	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	6	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	7	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	8	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	9	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	10	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	11	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	14	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	15	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	16	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	17	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	18	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	19	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	20	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	21	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	22	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	23	まとめ			予習、復習を行って授業に臨むこと。	

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	総合英語 I A					
科目名(英)	General English I A					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本 彩	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				英語の時制を理解し、身の回りの出来事を表現できる。
テキスト・教材 参考図書	高校英文法をひとつひとつわかりやすく 基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割				
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	5文型を使って自己紹介文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	時制①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	時制②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	時制③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	時制④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	時制⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	助動詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	助動詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	助動詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	形容詞・副詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	形容詞・副詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	形容詞・副詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	24	名詞・冠詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
25	名詞・冠詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	26	代名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	代名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	代名詞③	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	前置詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)授業内で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A					
科目名(英)	General English I A					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	野々村 賢一	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	英語講師22年	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解し、説明することができる。
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けすることができる。
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割				
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	品詞と文型 第5文型①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	品詞と文型 第5文型②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	なぜ5文型の把握が大切なのか①英語が複雑になる3大理由①修飾語			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	3つの構成単位: 語・句・節			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	句と節の対処法: 句・節の「範囲」を把握し、()でくくる			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	なぜ5文型の把握が大切なのか?②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	句・節の「役割」を特定する			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	なぜ5文型の把握が大切なのか③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	読解問題①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	読解問題②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	準動詞の概要: To V とing			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	不定詞の名詞的用法: 問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	不定詞の形容詞的用法: 問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	不定詞の副詞的用法: 問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	ingの用法①動名詞の概要説明			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	24	ingの用法①動名詞の文法問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
25	ingの用法②分詞の概要説明			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	26	関係代名詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	関係副詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	関係代名詞と関係副詞の使い分け・文法問題・読解	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	まとめ①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	まとめ②	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A					
科目名(英)	General English I A					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	未定	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。
	○	○				5文型を使い分けすることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けすることができる。
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	レベルチェックテスト				
	2	自己紹介／5文型とは／第二文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	第三文型、第一文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	第四文型、第五文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	第二文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	第三文型、第一文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	第四文型、第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	その1 時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	その1 時制 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	その2 完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	その2 完了形 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	復習 その1 時制・その2 完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	本番前復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	その3 助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	その3 助動詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	復習 その3 助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	その4 受動態			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	その4 受動態 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	復習 その4 受動態			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	その5 不定詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	その5 不定詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	復習 その5 不定詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	復習 その5 不定詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	24	その6 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
25	その6 動名詞 つづき 復習 その6 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	26	復習 その6 動名詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	問題演習 その1	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	問題演習 その2	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
	30	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 学内でTOEIC (IP) 検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを6回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S (90点以上)・A (80点以上)・B (70点以上)・C (60点以上)・D (59点以下) とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A					
科目名(英)	General English I A					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	未定	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。
	○	○				5文型を使い分けすることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けすることができる。
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割				
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	品詞と文型 第5文型①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	品詞と文型 第5文型②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	時制①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	時制②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	時制③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	助動詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	助動詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	形容詞・副詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	形容詞・副詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	形容詞・副詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	名詞・冠詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	名詞・冠詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	代名詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	代名詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	24	接続詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
25	接続詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	26	不定詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	不定詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	動名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	動名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 学内でTOEIC (IP) 検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを6回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S (90点以上)・A (80点以上)・B (70点以上)・C (60点以上)・D (59点以下) とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A					
科目名(英)	General English IA					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山 久豪	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	塾講師、英語講師	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	英語を単語でなく文として理解するためには、品詞と五文型についての知識習得が必要である。英文を作るルール(英文法)の基本となる品詞と五文型を学び、ルールの理解を深める。また、名詞・動詞についての知識を深め、より正確に自身の言いたいことを表現できるようになることを目標とする。					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解し、説明することができる。
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				英語で自己紹介文を書くことができる。
テキスト・教材 参考図書	総合英語プリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	プレイスメントテスト 振り返り				
	2	オリエンテーション、品詞と五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	品詞と五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	第一文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	第二文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	第二文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	第三文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	第三文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	第四文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	第四文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	第五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	第五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	五文型まとめ			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	五文型まとめ			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	名詞と代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	名詞と代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	一般動詞とbe動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	一般動詞とbe動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	三人称単数現在の動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	三人称単数現在の動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	24	完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
25	助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	26	助動詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	態	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	態	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	自己紹介文 作成	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ					
評価方法	<p>(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) TOEIC (IP) 検定試験を4月、8月に実施する。 評価方法は700点以上取得で100%、650点以上で95%、550点以上で90%とする。それ以下も取得点数により評価に反映する。 (3) 小テストを実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S (90点以上)・A (80点以上)・B (70点以上)・C (60点以上)・D (59点以下) とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IP) 検定試験	◎	○				20%
	小テスト	◎	○		○		20%
履修上の注意	<p>英単語の品詞がわかる辞書にアクセスできるようにすること。 また、出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。</p>						

科目名	English Conversation I A						
科目名(英)	English Conversation I A						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	Robert Jonathan Sumner / Talitha Cumi Ikeda / Eoghan Mac Coille		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	Airline 1						
授業概要	1. Students can raise their English proficiency. 2. Students can gain more confidence in using English. 3. Students can gain workplace related English skills.						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Students can raise their English proficiency.	
	○					Students can gain more confidence in using English.	
	○					Students can gain workplace related English skills.	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Get to know your teacher			none		
	2	1.1 Nice to meet you			Preview lesson materials and review previous lesson		
	3	1.2 Travel Light			Preview lesson materials and review previous lesson		
	4	1.3 Can I Have a Coffee?			Preview lesson materials and review previous lesson		
	5	Teacher's Lseeon or 1.4 Fawly Towers (needs TV/DVD)			Preview lesson materials and review previous lesson		
	6	1.5 Lookback /teacher's lesson			Preview lesson materials and review previous lesson		
	7	2.1 Join Us			Preview lesson materials and review previous lesson		
	8	2.2 High Flyers			Preview lesson materials and review previous lesson		
	9	2.3 What Time Does It Start?			Preview lesson materials and review previous lesson		
	10	Teacher's Lesson or 2.4 Chalet Girl (needs TV / DVD)			Preview lesson materials and review previous lesson		
	11	2.5 Lookback / Teacher's lesson			Preview lesson materials and review previous lesson		
	12	3.1 Just Good Friends			Preview lesson materials and review previous lesson		
	13	3.2 Big Happy Families			Preview lesson materials and review previous lesson		
	14	Review and Practice for Speaking Test			Preview lesson materials and review previous lesson		
	15	Speaking Test			Review previous lesson material		
評価方法	Students evaluation: (1) Test - 50% (2) Class participation - 25% (3) Attendance - 25 % The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験 Semester End Exam	○	○		○		50%
	小テスト In-class Tasks	○	○		○		50%
履修上の注意	Students will not receive a grade if they miss more than 5 classes.						

科目名	一般教養 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口 恵子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科 1年						
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の企業の採用試験に対応できる能力の要請を目指す。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					漢字検定準2級程度の漢字の読み書きができる	
	○					数学問題の解法を理解し、解答することができる	
	○					英検準2級程度の問題に解答することができる	
	○					日本をはじめとした主要国の地理や政治についての基礎的な内容を理解し説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目概要・シラバス説明			次回学習部分に目を通しておく(0.5時間)		
	2	ROUND1:漢字、英語、国際機関、時事用語			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	3	ROUND2:環境問題・選挙・政治・宗教について、漢字の知識			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	4	ROUND2:英語、敬語表現、文学史			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	5	ROUND3:英語、社会、国語 ●実力テスト1			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	6	ROUND4:社会、文学史 ●ROUND1~3確認テスト			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	7	ROUND4:社会、計算問題 ROUND5:国語、時事問題			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	8	ROUND5:社会、英語 ROUND6:国際機関、英語			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	9	ROUND7:国語、社会 ROUND8:国語			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	10	ROUND8:社会、英語 ROUND9:英語、時事問題、数学			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	11	ROUND9:社会、数学、英語			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	12	ROUND10:英語 ●実力テスト2			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	13	ROUND10:社会、数学、国語 ●ROUND4~8確認テスト			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	14	ROUND10:社会、英語、時事問題			テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
15	ROUND1~10のまとめと試験対策			試験範囲の部分の復習(1.5時間)			
評価方法	(1)定期試験 (2)確認テスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎			○		80%
	小テスト	◎			○		10%
出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	SPI対策 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口/合力/松藤/中山		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	現在、航空業界をはじめ多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されており、制限時間内に正確な解答を導き出す力が求められているため、この授業ではSPI(非言語分野)の頻出テーマを取り上げ、その解法を学ぶ。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える	
		○				各問題に対する基本的な解き方を理解した上で、応用問題にも活用できる	
		○				四則演算(玉手箱)問題を制限時間内に目標数解答することができる	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	■第1回レベルチェックテスト					
	2	科目概要説明、四則逆算、料金計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	3	四則逆算、金銭の貸借、損益計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	4	四則逆算、分割払い、損益計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	5	四則逆算、割合、分割払い				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	6	四則逆算、速度				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	7	四則逆算、速度				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	8	■第2回レベルチェックテスト					
	9	四則逆算、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	10	四則逆算、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	11	四則逆算、確率				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	12	四則逆算、確率、集合				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	13	四則逆算、集合、図表の読み取り				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	14	四則逆算、図表の読み取り				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験 (2)レベルチェックテスト (3)出席状況以上を、以下の観点・割合で評価をする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎		○		80%
	レベルチェックテスト(2回の平均)		◎		○		10%
出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	SPI対策 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口/合力/松藤/中山		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	現在、航空業界をはじめ多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されており、制限時間内に正確な解答を導き出す力が求められているため、この授業ではSPI(非言語分野)の頻出テーマを取り上げ、その解法を学ぶ。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える	
		○				各問題に対する基本的な解き方を理解した上で、応用問題にも活用できる	
		○				四則演算(玉手箱)問題を制限時間内に目標数解答することができる	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	■第1回レベルチェックテスト					
	2	科目概要説明、四則逆算、料金計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	3	四則逆算、金銭の貸借、損益計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	4	四則逆算、分割払い、損益計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	5	四則逆算、割合、分割払い				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	6	四則逆算、速度				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	7	四則逆算、速度				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	8	■第2回レベルチェックテスト					
	9	四則逆算、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	10	四則逆算、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	11	四則逆算、確率				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	12	四則逆算、確率、集合				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	13	四則逆算、集合、図表の読み取り				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	14	四則逆算、図表の読み取り				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験 (2)レベルチェックテスト (3)出席状況以上を、以下の観点・割合で評価をする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎		○		80%
	レベルチェックテスト(2回の平均)		◎		○		10%
出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	SPI対策 I C						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口/合力/松藤/中山		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	現在、航空業界をはじめ多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されており、制限時間内に正確な解答を導き出す力が求められているため、この授業ではSPI(非言語分野)の頻出テーマを取り上げ、その解法を学ぶ。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える	
		○				各問題に対する基本的な解き方を理解した上で、応用問題にも活用できる	
		○				四則演算(玉手箱)問題を制限時間内に目標数解答することができる	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	■第1回レベルチェックテスト					
	2	科目概要説明、四則逆算、料金計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	3	四則逆算、金銭の貸借、損益計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	4	四則逆算、分割払い、損益計算				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	5	四則逆算、割合、分割払い				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	6	四則逆算、速度				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	7	四則逆算、速度				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	8	■第2回レベルチェックテスト					
	9	四則逆算、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	10	四則逆算、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	11	四則逆算、確率				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	12	四則逆算、確率、集合				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	13	四則逆算、集合、図表の読み取り				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	14	四則逆算、図表の読み取り				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験 (2)レベルチェックテスト (3)出席状況以上を、以下の観点・割合で評価をする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎		○		80%
	レベルチェックテスト(2回の平均)		◎		○		10%
出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Word						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮原 裕花		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科 1年						
授業概要	パソコンの基本になるマウスの正しい操作方法や文字の入力を学習する。入力に関しては、タッチタイピング(キーボードを見ないで文字入力)をすることが実務で必要になるので、タイプクイックソフトを使いマスターする。また、文字入力は後期に学習する航空券の発券業務に必要となるので、ヘボン式のローマ字入力を正確に学ぶ。テキストを使って一般的なビジネス文書(社内文書・社外文書)や表の作成方法を学習する。ビジネス文書作成上のマナーを学習する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					マウス(パソコンの基本操作)を正しく操作できる。	
			○	○		キーボードを見ないで文字入力ができる。	
		○	○			ヘボン式ローマ字で文字入力ができる。	
	○					ビジネス文書の社外文書と社内文書の違いを説明することができる。	
	○	○			ビジネス文書作成に必要な文字入力や編集機能を効率的に操作できる。		
テキスト・教材 参考図書	Word2019クイックマスター(基本編)、Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2019対応)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業概要の説明とパソコンの基本操作					
	2	タイプクイックの設定と操作			毎日15~20分タイプクイックの練習をする。		
	3	タイプクイック・Word2019の基本操作			毎日15~20分タイプクイックの練習をする。		
	4	タイプクイック・Word_ローマ字入力			毎日15~20分タイプクイックの練習をする。		
	5	タイプクイック・Word_いろいろな文字入力			毎日15~20分タイプクイックの練習をする。		
	6	タイプクイック・Word_効率的な文字の訂正			毎日15~20分タイプクイックの練習をする。		
	7	Word_文章入力・入力練習問題・タイプクイック成績提出			テキスト記載の実習問題6~17を完成させる(1時間)		
	8	文字編集機能・入力速度テスト(小テスト1回目)			テキスト記載の実習問題6~17を完成させる(1時間)		
	9	文書作成_社内文書の作成・社内文書の特徴について			テキスト記載の実習問題18を完成させる(1時間)		
	10	文書作成_社外文書の作成と作表・社外文書の特徴について			テキスト記載の実習問題19を完成させる(1時間)		
	11	文書作成_画像・テキストボックスの挿入・文書作成練習問題			テキスト記載の実習問題20~22を完成させる(1時間)		
	12	文書作成テスト(小テスト2回目)・作表機能の学習					
	13	オブジェクトを含んだ文書作成_画像の挿入と編集・ワードアート			テキスト記載の実習問題24を完成させる(1時間)		
	14	オブジェクトを含んだ文書作成_図形描画			テキスト記載の実習問題25,27を完成させる(1時間)		
15	期末実技試験						
評価方法	(1)タイプクイックの成績提出(Lesson6まで、正解率95%以上)とタッチタイプの習得。 (2)授業内容の把握状況を確認する小テスト(入力・文書作成)を2回実施する。 (3)課題提出テキスト「30時間でマスター Word2019」内の入力練習文・ビジネス文書作成の練習問題の8割以上。(最終授業終了時にメモリ提出。期限までに提出することも評価条件に含む。) (4)作表や画像を含む文書作成の実技問題を期末試験とする。 成績評価基準は、成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○	◎	◎			50%
	タイプクイックとタッチメソッド			◎	◎		10%
	小テスト	○	○	◎			20%
課題提出		○	◎	◎		20%	

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、評価はDとする。タッチメソッドは継続したトレーニングによって習得できる物なので、毎日15~20分程度の自主トレーニングが必要である。公欠でテスト(小テストを含む)を受験できない場合は前もって講師に相談すること。

科目名	コミュニケーション技法						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小川 果		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	コミュニケーションとは何か、より良いコミュニケーションの為に大切なことは何かを理解する。言いたいこと、言うべきことを明確かつ簡潔に相手に伝えることができるようにする。言語表現を高めることにより、セルフエスティームを向上させ、新たな社会で生きていく自信をつけさせる。社会での事象への関心を深めさせ、自分と社会を関連付けて考えることができるようにする。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					1対1での対話がきちんとできる。	
	○					自らの意見、考え方、価値観を開示することができる。	
	○					人の話をしっかり聞き、考え方や価値観の多様性を理解できる。	
	○					ニュースに関心をもち、社会的存在としての自分に気づくことができる。	
○					自分とは何か、自分とはどんな人間か、より深く考えることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会とはなにか 社会とは? 家庭とは? クラスとは?			授業内容の復習(0.5時間)		
	2	何を学ぶか 何を手に入れたいか? コスト意識を持って			授業内容の復習(0.5時間)		
	3	コミュニケーション(1) マナー、返事、1対1で話す			授業内容の復習(0.5時間)		
	4	コミュニケーション(2) 聞く、質問する			授業内容の復習(0.5時間)		
	5	コミュニケーション(3) 相手の話を要約する			授業内容の復習(0.5時間)		
	6	コミュニケーション(4) 実践報告			授業内容の復習(0.5時間)		
	7	スピーチ(1) 「物」を媒介にして自分を伝える①			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	8	スピーチ(1) 「物」を媒介にして自分を伝える②			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	9	スピーチ(2) 「言葉」を媒介にして自分を伝える①			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	10	スピーチ(2) 「言葉」を媒介にして自分を伝える②			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	11	スピーチ(3) 「ニュース」を媒介にして自分を伝える①			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	12	スピーチ(3) 「ニュース」を媒介にして自分を伝える②			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	13	自己紹介 あなたはどんな人ですか?			発表内容をまとめておく(0.5時間)		
	14	グループディスカッション			授業内容の復習(0.5時間)		
15	社会とは何か 社会人となるため留意するポイント			授業内容の復習(0.5時間)			
評価方法	(1)出席状況を意欲点として評価 (2)平常点(発表の回数) (3)技能点(各課題ごとに評価)以上を、以下の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		30%
	平常点(発表の回数)		○		◎		30%
技能点	◎	○				40%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ペン字						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	書道講師歴37年		
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・航空業界で働く者として、日常生活における硬筆書写の一般知識・理解を深め、業務遂行時に実践できる基礎力を習得する。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り、書写することにより集中力を身につける。 						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					正しい言語づかいで、自分の履歴書を書くことができる。	
			○			書式に従って、美しい文字で書写することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字基本 — 氏名練習、履歴書書式			ボールペンの練習をしておくこと。(0.5時間)		
	2	ペン字基本 — 基本点画			氏名の練習を復習しておくこと。(0.5時間)		
	3	ペン字基本 — 基本点画・筆順			基本点画を復習しておくこと。(0.5時間)		
	4	ペン字基本 — 字形の整え方、字形24体			筆順を復習しておくこと。(0.5時間)		
	5	ペン字基本 — 字形の整え方、へんとづくり			字形の整え方を復習しておくこと。(0.5時間)		
	6	ペン字基本 — 平仮名の字源、片仮名			平仮名の復習をしておくこと。(0.5時間)		
	7	履歴書 — 履歴書を体裁よく書くコツ			履歴書の必要事項を調べておくこと。(0.5時間)		
	8	履歴書 — 履歴書ペン書き練習			履歴書の下書きを仕上げしておくこと。(1時間)		
	9	履歴書 — 横書きを美しく書く為のコツ・清書			履歴書ペン書きをしておくこと。(1時間)		
	10	実用書 — 筆ペンの用筆・基本点画			履歴書清書を提出できるようにしておくこと。(2時間)		
	11	実用書 — 七夕短冊・芳名帳			基本点画を復習しておくこと。(0.5時間)		
	12	実用書 — のし書きの書式			氏名の練習をしておくこと。(0.5時間)		
	13	実用書 — はがき(暑中見舞)、封筒の書式			筆ペンに書きなれておくこと。(0.5時間)		
	14	就活にむけて — 求職票の書式			自己紹介文を考えておくこと。(1.5時間)		
15	就活にむけて — エントリーシートの書き方			苦手な文を考えておくこと。(1時間)			
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験の代わりとして評価する。 (2)数回、課題を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書	○		◎			80%
	提出物	○	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	キャリアデザイン I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	平田 かおり		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	国内航空会社にて国際線グランドスタッフとして勤務		
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年						
授業概要	社会人になる上で必要とされる主体性や働きかけ力、状況把握力を養うことを目的とし、クラス運営や委員会活動を通して、自ら考え、工夫をして行動する力を身に付けていく。クラスメイトや担任といった身近な人の為に何ができるのかを日頃から意識して行動できるように、どういった心構えで生活すべきかを知る。また、後期に始まる就職活動準備に向けて、スケジュール管理や自己分析の仕方等についても学んでいく。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		各委員会の活動内容を理解し、担任の指示がなくても行動できる。	
		○		○		自身で目標を設定し、達成に向けた行動を心がけることができる。	
		○		○		東京研修事前課題において、グループで協力をして資料作成をし、発表することができる。	
				○		提出期限を厳守することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス内オリエンテーション				特になし。	
	2	目標設定・クラス内委員会活動について				目標を考えてくること。(0.5時間)	
	3	1・2年生交流会				先輩への質問事項を考えてくること。(0.5時間)	
	4	東京研修について(事前課題への取り組み)				特になし。	
	5	就職活動準備について ①就職スケジュール、試験内容の確認				希望職種の試験スケジュールを調べてくること。(0.5時間)	
	6	就職活動準備について ②自己分析				特になし。	
	7	東京研修事前課題発表会				各グループで発表準備を行うこと。(1.5時間)	
	8	就職活動準備について ③自己PR、職種志望動機作成について				特になし。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)前期中に3回作文を提出する。(2)東京研修事前課題を行う(資料作成・プレゼンテーション)。(3)数回、提出物を課す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作文提出	○			○		70%
	東京研修事前課題		○		○		20%
提出物				○		10%	
履修上の注意	特になし						

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	平田 かおり		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	国内航空会社にて国際線グランドスタッフとして勤務		
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年						
授業概要	自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーションなど、社会で生き抜くうえでの「人間力」の根本は、自分の環境における感謝の気持ちにある。日常生活の中で「与えられることが普通」と思ってしまう「他社依存」から脱却し、周囲との協働を保ちつつ使命感を持って行動できる自立心を育む。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
						※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			自分を取り巻く環境全てに感謝をし、自ら考え、気づき、行動に移すことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	「グローバルシティズン ベーシック I ～感謝心と思いやりの教育～ (学生テキスト)」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	2	「協働」の意識をもった学生生活の重要性				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	3	より良い人間関係の構築に向けて ～モラル・ルール・マナーの重要性～				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	4	マナーの本質 ①				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	5	マナーの本質 ②				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	6	グローバルシティズンとしての日常				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	7	グローバルシティズンとしての目標				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	8	発表				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートの作成(8回) (2)最後の授業で発表 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成(8回)	◎			○		50%
	発表				○		50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						